

外国語活動・英語部会

部会長：附属高等学校 平田智子
 部会員：附属小学校 濱雪乃、前原文江
 附属中学校 加藤理嘉、西平美保、林多恵子
 附属高等学校 金子麻子、平田智子、遊馬智美

【今年度のテーマ】

外国語（英語）科における、「対話による学び」により、児童生徒等の資質・能力の向上を図る、幼小中高大の接続を意識した開発研究

【年間スケジュール】

月	日	曜日	備考 ★は原則全員参加の内容	司会進行 企画（含：発表）	記録
4	11	火	★全体会（新任紹介、今年度の連携研究体制について） → テーマ別部会		
5	9	火	テーマ別部会①	「テーマに関する討議」 各校から話題・トピックを 出して話し合う	高校
6	6	火	★附属校園人権研修		
7	4	火	テーマ別部会②	中学	小学校
8					
9	5	火	テーマ別部会③	高校	中学
10	3	火	★研究倫理・情報セキュリティー研修		
11	7	火	テーマ別部会④	小学校	高校
12	12	火	各学校園の研究共有会（1校園15分程度） → 部会は開催せず		
1	16	火	テーマ別部会⑤	中学	小学校
2	27	火	テーマ別部会⑥ （前半：高校） （後半：今年度のまとめ、来年度に向けての確認。まとめは高校担当。）	高校	中学
3			今年度も2月の開催が最終日		

【テーマ別部会内容】

① 5/9

複数のトピックについて、各附属校園の状況を話し合った。一つ目として、教科書付随のデジタル教材の活用については、生徒にどのように活用させるかまた実習生にもデジタル教科書を使用して教育実習登壇をさせるのかということ議論した。二つ目に、英作文の添削で気をつけていることを共有し、観点別評価の観点から何を重点的

に見るのかということ話し合った。さらに、2023 年度共通テーマである「対話による学び」については、そもそも「対話」は会話や議論と何が違うのか、対話による学びではどんなアプローチが考えられるかをブレインストーミングした。

② 7/4

主に、中学校での取組を共有し、議論した。外国語科における「対話的な学び」の具体的な実践例として、ライティングする前にアイデア出しとしてペアで意見交換する、ライティングの途中段階としてペアでチェックする、リーディングした内容をペアで共有し理解を深め気持ちを込めて音読発表するなどが挙げられた。また、中学校の英語版パンフレットを作り直すというタスクに取り組みせ、2～3人のグループで各項目を分担させ、責任を持って作成・発表させる、という大きなプロジェクトを学年で行ったという実践も紹介された。

③ 9/5

主に、高校での取組を共有し、議論した。「対話による学び」について、今回は教材（教科書の本文）との対話およびグループメンバーとの対話を通して、教科書の内容について音声付きの発表スライドを作るということに取り組みさせた。また、それぞれのグループ発表を見た他グループの生徒との間にまた新たな対話が生まれてくることになり、学びの深まり・広がり・意欲向上につながっているとの意見もあった。

④ 11/7

主に、小学校での取組を共有し、議論をした。小学校からは、「対話による学び」において、(1)外国語・異文化についての気づき＝外国語・異文化との初めての対話、(2)表現（方法）を高め合う＝児童同士また教員・ALT との対話により表現の幅を広げていく、という2つのアプローチが紹介された。(1)の取組として、How's the weather?を実際の海外の天気をリアルタイムの動画で見たりしながら、What time is it now?をオンラインの世界地図からリアルタイムで時差を感じさせながら、それぞれ答えさせる、という本物(Authenticity)を重視した授業例が挙げられた。また(2)の取組としては、ペアでスライドを作り発表し、オーディエンスの児童は評価シートで相互評価し、その後 ALT へ発表しフィードバックを与えられ、さらに改善されていくという授業例が共有された。

⑤ 1/16

「対話による学び」をどう評価につなげていくかということについて、3校種で話し合いを行った。積極的に対話しそこから学びを得ていることを測るために、3観点をどうリンクさせるか、特に「主体的に学習に向かう態度」では何を見るべきかについて各校種とも発達段階により様々な考え方が共有された。発達段階によっては観点別の重みづけを変えていることもあり、各校種とも他校種との違いを学び、他校種への接続を考える上で大きな気づきとなり、接続期における今後の配慮の仕方も模索することができた。

⑥ 2/27

玉川大学の工藤洋路教授が英語授業研究学会（2024.2.18）で発表された「小中高での英語学習を見据えた大きな視点で授業を構成する力」の内容についての報告がなされた。小中高の学習指導要領の比較や、小中高に進むにつれて活動がどのように複雑化していくかなどを共有した。その後の議論においては、小学校では、まずフレーズ・フレームで覚えていくが段々と自分の言いたいことがフレーズだけではおさまりきらなくなっていくということ、また中学校以降ではフレームから離れていくと誤りも多くなるがその誤りには意味があり、その誤りから気づきが多くなり上達もしていく、という意見が出された。

【まとめ】

2023 年度共通テーマ「対話による学び」を基に、外国語（英語）科ではどのようなアプローチまた小・中・高それぞれの発達の段階を意識した取組ができるかを模索し、情報共有した。さらに、接続という視点に立ち、各校種へステップアップする際スムーズに移行できるように積極的に情報交換し、異なった校種の取組への理解に努めた。